

## 第 3 節 未指定の歴史文化遺産

本町の歴史文化遺産は、49 件の国、県、町指定等文化財だけではなく、建造物、石塔、有形・無形の民俗文化財など未指定のものが豊富に存在している。その多くは、およそ 700 年に及ぶ相良氏の統治下で保護されてきた様々な神仏に対する信仰を由来に持つものや、現在も町の基幹産業となっている農林業に関するものである。

時代が下るとともに多少の変容などは見られるが、本来の形態を保っているものもあり、その態様は様々である。

## ( 1 ) 建造物 ( 社寺、堂宇、石造物等 )

## ・ 社寺

## ① 稲荷神社

稲荷信仰は、農業の神といった面が強いこともあり、農林業を基幹産業とする町内には、馬場、山ノ口、田上、下里など各地に稲荷神社が見られる、山ノ口地区では、稲荷初詣と初午祭、田上地区では初午祭、下里地区では単に稲荷祭と呼ばれ、それぞれの集落で行われている。

馬場 旧暦 2 月初午、4 月 15 日、新暦 9 月 27 日、旧暦 11 月初午

山ノ口 1 月、3 月、6 月、9 月

田上 2 月

下里 2 月

祀られ方も地区によりさまざま、馬場稲荷は馬場区の広域農道沿いに、山ノ口稲荷は山の中腹に位置し、参道が整備されているほか、田上稲荷は昭和 28 年 ( 1953 ) から 6 年かけて行われた市房ダム建設工事の引揚者 2 名が代表者として御神体を祀ったことから民家のすぐ隣に建っている。また、下里稲荷は弘法大師を祀る御大師堂の隣に建てられているが、この付近はもと吉祥院の寺域であったことから、神仏習合の名残を感じさせるものとなっている。



写真 4-1 馬場稲荷神社



写真 4-2 山ノ口稲荷神社



写真 4-3 田上稲荷神社

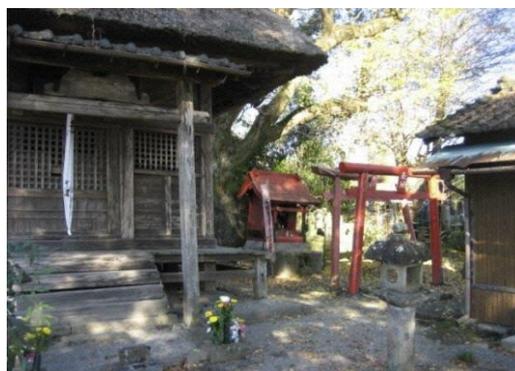


写真 4-4 下里稲荷神社

## ② のなかだやまじんじゃ 野中田山神社 (山の神)

町内では、稲荷神社と同様に各地に山の神が祀られており、旧暦の正月、5月、9月に林業関係者等が神事を行う。

山の神は一般的に女性神であるため、男性のみの参列となっているが、野中田山神社では、女性だけが参列する山の神祭が毎年12月13日に行われている。

その昔、野中田地区内の元町集落で、女性の病や早世が相次いだことから、その平癒を願い、女性の神である山の神を祀ったことが起源であるとされている。

明治22年(1889)に一度潮神社へ合祀されたと伝えられているが、平成になり、元の場所へ戻された。



写真 4-5 野中田山神社

③ やすまきじんじや  
安牧神社

水上村との町村界近くの浜川区に位置する安<sup>やす</sup>牧<sup>まき</sup>神社は、江戸時代後期に建てられ、当初は宮司である土屋家の牛馬の守護神として祀られていたが、いつの頃からか近所の牛馬を飼う人びとが集まるようになったことから、現在ではひろく牛馬の守護神として広く知られ、神社に参拝すると長い間農耕で活躍できるといわれている。

毎年12月1日には例大祭が行われ、地域の内外から多くの農業関係者が訪れる。この神社ではかつて球磨神楽が舞われていたが、現在は踊り手不足などから神楽は行われていない。

例大祭の神事では、牛馬を引き連れての参拝が一般的で、昭和30年代以降は農業の急速な機械化により、牛馬を伴う光景は少なくなったが、農業系学科を持つ熊本県立南<sup>なんりょう</sup>稜高等学校（あさぎり町）の生徒が毎年牛を連れて参拝するなど、現在も地域農業を司る神社として存在している。

## ④ 妙見社

妙見社は、水上村との町村界に位置する浜川区の球磨川の近くに位置している。

創建時期は不明ながら、堂には大正年間（1912～1926）の銘があり、当時地区で流行していた病の平癒を願って祀られた疱瘡<sup>ほうそうがみ</sup>神といわれている神像が安置されている。

毎年12月上旬には注連縄の付け替えや氏子による清掃などが行われ、神事では安牧神社の宮司が地区住民の無病息災を祈願する。



写真 4-6 安牧神社



写真 4-7 南陵高校生徒による参拝



写真 4-8 妙見社



写真 4-9 鳥居の縄緋い

## ⑤ 大王神社(永岡大王神社)

大王神社は、『球磨郡神社記』によると、永正2年(1505)に再興されたといわれており、蛇の神様(通称「じゃおうさん」)を祀っている。

堂内の木造男神坐像(町有形文化財)は応仁元年(1467)の銘があり、天台系仏師として活躍した<sup>えりん</sup>慧麟の作であることがわかっている。

堂宇は天和年間に修繕、元禄3年(1690)に造り替えをそれぞれ行っており、旧暦11月25日前後に神社周辺の人びとが集まり、安牧神社宮司による神事後、参拝を行う。



写真 4-10 永岡大王神社



写真 4-11 秋季例祭の様子

## ⑥ 八王子神社

日吉大社山王二十一社のうち、上七社の四番目、牛尾神社と同体の祭神(大山咋神荒魂<sup>おおやまくいのかみあらみたま</sup>)が祀られており、所在する植木地区の氏神に位置づけられている。

小川を跨いで建てられた本殿と東側に位置する石製の明神型鳥居<sup>みょうじんがたりい</sup>が特徴であり、この鳥居には、安永2年(1773)正月に人吉の石工である松尾傳右衛門<sup>まつおでんえもん</sup>により再建された事を示す銘がある。町内に残る唯一の江戸時代からの石鳥居として、町指定文化財となっている。



写真 4-12 八王子神社



写真 4-13 八王子神社石鳥居

祭事は毎年3月と9月に例祭を、12月12日に大祭を行う。例祭では地区を7つの班に分けて当番とし、当番は彼岸のうち3日間(入り、中日、冷め)神社でお茶立てをする。

大祭は実施日が12月12日(理由は不明)と決められており、地区を上と下の組に分け隔年の交代で当番としている。当番は朝から集まって7本の縄を縛って注連縄とする。また、

ご神体の衣（御神衣：紙製）を市房山神宮里宮神社にて宮司が取り替える。午後からはお祓い等の神事が行われ、地区住民の安全を祈願した後、住民が参加しての直会が行われる。

#### ⑦ 水神社

町内では馬返（浜川区）と桑津留（上猪区）に現存しているもので、いずれも水に関する施設の近くに建てられている。馬返の水神社は江戸時代の人吉藩領内を描いた『球磨絵図』の中に「水神」と記されている。この付近でかんがい用水の幸野溝が竣工した宝永2年（1705）に取入口の近くに創建された。その後、幸野溝取入口が下流に移されたのに伴い、現在の場所に移転した。

現在は水戸神社として幸野溝土地改良区による管理が行われ、毎年4月25日に土地改良区による例祭が行われている。また、境内には江戸～明治時代の普請工事祈念碑が建てられている。



写真 4-14 水戸神社



写真 4-15 幸野溝旧堰普請記念碑一括  
(町指定文化財)

桑津留では蓑谷ため池の整備に伴い建立された。地区では古くから「ごしんさん」として親しまれている。もと湯山（水上村）にあった水神社を分祀したものといわれている。中には木製の御神体が祀られており、毎年3月と9月の彼岸の中日に地元住民による神事が行われる。



写真 4-16 水神社



写真 4-17 水神社の地蔵像

## ⑧ 西光寺阿弥陀堂跡

湯前城跡の東側に古城台地ふるじょうとよばれる台地があり、一帯が湯前城より古い時期の城跡となっている西側のふもとに残るもので、以前は茅葺きの堂(阿弥陀堂)があったといわれている。

戦後は官有地払い下げなどにより解体・撤去され、現在は周辺に残る石造物や、生善院しょうぜんいん(水上村)に伝わる木造阿弥陀三尊像などが往時を偲ばせるものとなっている。このうち、中尊の阿弥陀如来坐像の背面に天正3年(1575)の朱書銘、両脇侍(観音菩薩、勢至菩薩)背面には天正16年(1588)の墨書銘が残されていることから、天正年間にはお堂が建てられていたことが分かる。古城区には古くから生善院の檀家が多く住んでおり、堂の解体後、檀家の手により生善院へ移されたものである。なお、生善院ではこの時、西光寺跡にあった弘法大師像も移されたとの言い伝えがある。



写真 4-18 西光寺阿弥陀堂跡



写真 4-19 木造阿弥陀如来像(生善院蔵)

・ 堂宇

① 地蔵堂

町内では、お堂の跡を含め7箇所が確認できる。古城区と下城区にそれぞれ1箇所ずつあり、古城区では公民分館の近くに木製の堂が建てられ、宮崎県の宇野間不動尊から分祀され、地元では「宇野間地蔵堂」と呼ばれている。下城では道路整備に伴い、路傍に地蔵像が庚申塔とともに祀られている。



写真 4-20 古城の宇野間地蔵堂



写真 4-21 下城の地蔵堂

② 不動堂

不動明王を祀る堂で、町内では<sup>かみざと</sup>上里3区にのみ建てられている。もとは<sup>かいもと</sup>貫元とよばれる集落内で祀られていたが、昭和の末頃に公民分館敷地内に移転された。

7月下旬に住民が集まり、同じく分館敷地内にある地蔵堂とあわせて、不動尊・地蔵祭が行われる。



写真 4-22 上里3区の不動堂



写真 4-23 不動明王像

### ③ 観音堂

町内では相良三十三観音札所に選定された3箇所以外にも観音堂が5箇所を確認できる。このうち馬場区では、下山ノ口に昭和38年(1963)に彩色補修された像が安置されている。左手に薬壺を乗せていることから、薬師如来像であることが確認できるが、地区では古くから観音堂といわれていることから、本尊として観音菩薩像も祀られていた可能性がある。

また、堂内には昭和頃に持ち込まれたと思われる大黒天像も安置されている。この像は、江戸後期の人吉藩内で多くの仏像を残した西米良(現在の宮崎県西米良村)村所の仏師大円の手によるものである。



写真 4-24 下山ノ口の観音堂



写真 4-25 薬師如来像

### ④ 薬師堂

現世利益をもたらすほとけとして古くから信仰されており、町内でも浅鹿野<sup>あさかの</sup>と上村に残されている。浅鹿野の薬師堂は、もと地区内の個人宅にあったものを、八幡社とともに移したもので、跡地には「堂屋敷<sup>どうやしき</sup>」という地名も残っている。上村の薬師堂は、枝が横に伸びたエノキが立っていたことから、「平榎<sup>ひらえのき</sup>の薬師堂」ともいわれる。毎年旧暦6月7日に「薬師堂ゴヤ(御夜か)」とよばれる祭事を行う。



写真 4-26 浅鹿野区の薬師堂



写真 4-27 上村区の薬師堂

⑤ 庚申塔

庚申塔は、<sup>かのえさる</sup>庚申の日に徹夜で行う庚申講の記念碑として、球磨地域の各地に残されている。町内では17世紀中頃から19世紀にかけて多く建立され40基が現存している。その多くは字界や道筋に建てられており、本尊も地蔵や<sup>しょうめんこんごう</sup>青面金剛、猿田彦などさまざまである。



写真 4-28 庚申塔  
(野中田1区)



写真 4-29 庚申塔  
(下城地蔵堂跡)



写真 4-30 庚申塔  
(牧自)

⑥ 石橋

町内に現存する石橋は、いずれも都川に架かる下町橋及び古町橋がある。明治39年(1906)に架けられた下町橋は、以前脇に権現社があったことから、通称「<sup>ごんげんぼし</sup>権現橋」ともよばれ、町指定となっている。

古町橋は現在の下染田区に架かる石橋で、長さは13m。建設資金は地元の有志による寄付金で賄われたと伝えられる。昭和2年(1927)に完成し、後年、基礎部分をコンクリートで固めたがほぼ原形をとどめており、現在は県道に編入されている。なお、昭和の頃までは対岸の生善院(猫寺)へ参詣するために、先で合流する球磨川を渡る舟が使われていた。



写真 4-31 古町橋と都川

## ⑦ 幸野溝

幸野溝の開削は、全国的な新田開発が行われた江戸時代に、現在の浜川区に球磨川からの取水口をもうけ、多良木町とあさぎり町を経て錦町に至る灌漑用の疎水で、元禄 8 年（1695）に人吉藩士高橋政重が開田に必要な水利施設の工事を命じられたことから始まった。

幸野溝施設で特徴的なものとして、旧貫と第三の貫、新貫と呼ばれる<sup>ずいどう</sup>隧道がある。新貫は、凝灰岩質の古城台地をほぼ南北に 665m 掘り抜いたもので、同じ火山灰の台地を開発した薩摩藩からの技術援助を受け完成させた。

送水路は現在の取水口である幸野ダムから、道路と並行して続く施設で、貫（隧道）の分岐点まで、石組みもしくは土塁状の構造物を見ることができる。

旧貫は浜川の台地部分から古城まで掘られている。これは幸野溝開削当初から残る施設で、当時の開削技術の高さがうかがえる、導水パイプが設置された現在も通水している。

新貫は全長 665m で、旧貫は内部で屈曲が多く、崩落の恐れもあったため、旧貫の完成から 9 年後に薩摩藩から 45 人の技術者を招き、直線の隧道を新たに掘り直したものである。隧道の開削当初は、作業に従事する農民達も過酷な作業を敬遠したため、のちに「<sup>ぬきほ</sup>貫掘り<sup>せん</sup>銭」と呼ばれる割増賃金の制度を導入した。これは、掘り採った土を貫から運び出す度に、出口に置かれた壺の中から賃金を貰っていくという仕組みで、この制度により新貫の工事は大いにはかどったといわれている。

さらに、完成から 23 年後の享保 16 年（1729）には新貫で内部の補強に着手し、約 3 分の 2 を石柱の合掌づくりに変えたといわれている。



写真 4-32 幸野溝導水管



写真 4-33 水路（旧貫）内部

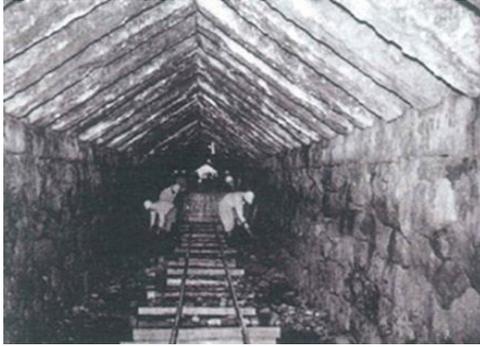


写真 4-34 古城隧道（昭和の改修時）



写真 4-35 古城隧道（新貫）出口

水路橋は、幸野溝水路と河川が交差する箇所にあたり、本町内では、牧良川、都川、仁原川の3河川に架かっている。昭和30年代の改修に伴い、それまで標高に応じた水路の迂回をしていたものを水路橋で直線的に流すようにした。仁原川水路橋の近くには、寛政7年（1795）の仁原川落とし記念碑があり、その歴史を伝える。

幸野溝は数度の改修を経て、現在は水路延長15.4キロメートル（増設された新幸野溝を含めると27.8キロメートル）、かんがい面積1,381ヘクタールの規模となり、米をはじめとして、葉たばこやハウスメロン、花きなど多岐にわたる農産物の栽培に貢献し、球磨地域を熊本県内有数の農業地帯に発展させた。

表 4-5 建造物・堂宇・碑等の歴史文化遺産

番号	神社名称	所在小字名	番号	堂宇名称	所在小字名	番号	堂宇名称	所在小字名
1	牧 神 社	塩 利	1	地 蔵 堂 跡	馬 返	18	薬 師 堂	平 榎
2	水 神 社 跡	馬 返	2	西光寺 阿弥陀堂跡	加古井	19	毘 沙 門 堂	中 村
3	妙 見 社	下川久保(浜川神社)	3	運 泉 寺 跡	加古井	20	阿 弥 陀 堂	下 村
4	大 王 社	下永岡(永岡神社)	4	普 門 寺 跡	野 首	21	観 音 堂	下山ノ口
5	市房神宮 遥拝所跡	野 首	5	地 蔵 堂 跡	下 城	22	大 師 堂	下山ノ口
6	若 宮 社 跡	下 城	6	毘 沙 門 堂 跡	下染田	23	地 蔵 堂	野畑
7	権 現 社 跡	下 城	7	観 音 堂	老 神	24	大 師 堂	掛端
8	年 神 社 跡	加古井	8	地 蔵 堂	大 塚	25	薬 師 堂 跡	下柿木
9	天 神 社	下染田	9	吉 祥 院 跡	後 原	26	浄 心 寺	下 辻
10	八 坂 社 跡	後 村	10	地 蔵 堂	下牧原	27	宝 陀 寺	上 辻
11	八 幡 社	上ノ段	11	宝 泉 院 跡	嶽ノ下	28	八 勝 寺	平野
12	八 幡 社	猪鹿倉山	12	観 音 堂	野中田	29	地 蔵 堂	下馬場
13	水 神 社	桑津留(水神社)	13	薬 師 堂	上ノ段	30	不 動 堂	買元
14	潮 神 社	潮 山	14	観 音 堂	北牧良	31	地 蔵 堂	買元
15	山 神 社	上元町	15	観 音 堂	七ツ山	32	観 音 堂	下松下
16	天 神 社 跡	平 榎	16	大 師 堂	下仁良田	33	地 蔵 堂	植木(多良木)
17	熊 野 社	平 榎	17	阿 弥 陀 堂	田 上			
18	八 幡 社	中 村						
19	八 幡 社	下 村						
20	稲 荷 社	仁 原						
21	稲 荷 社	長谷場						
22	熊 野 社 跡	下 辻						
23	熊 野 社 跡	下 辻						
24	八 幡 社 跡	水ノ手						
25	八 尾 神 社 跡	下柿木						

表 4 -6 碑等の歴史文化遺産

番号	名称	番号	名称	番号	名称	番号	名称
1	猿田彦碑	16	庚申塔	31	地藏碑	46	念仏碑
2	猿田彦碑	17	地藏碑	32	庚申塔	47	庚申塔
3	念仏碑	18	庚申塔	33	庚申塔		
4	庚申塔	19	青面金剛塔	34	庚申塔		
5	庚申塔	20	庚申塔	35	庚申塔		
6	庚申塔	21	庚申塔	36	地藏碑		
7	青面金剛塔	22	庚申塔	37	庚申塔		
8	庚申塔	23	庚申塔	38	庚申塔		
9	庚申塔	24	庚申塔	39	地藏碑		
10	庚申塔	25	庚申塔	40	庚申塔		
11	念仏碑	26	庚申塔	41	庚申塔		
12	庚申塔	27	禅休碑	42	庚申塔		
13	念仏碑	28	庚申塔	43	庚申塔		
14	庚申塔	29	安心碑	44	地藏碑		
15	地藏碑	30	庚申塔	45	庚申塔		